

自主臨床研究

神経代謝・臨床遺伝グループ

日本語版ゲノム知識尺度によるゲノム知識測定

1. 研究の対象	エクソーム解析あるいは単一遺伝子検査を受けた患者
2. 研究目的・方法	近年、遺伝学に関する研究が進み、遺伝医療が著しく発展したことで、ヒトの「遺伝」に対する知識が拡大してきた。国内における先行研究では遺伝病に対する否定的な印象が報告されている。このような印象が、遺伝疾患に対する偏見や差別につながるものが懸念されており、その理解は十分であるとは言いがたい。これまで国内外で遺伝に関する知識に関する研究は行われてきたが、国内で妥当性・信頼性が確立した遺伝に関連した知識尺度は見当たらない。本研究では調査1において海外で開発されたThe University of North Carolina Genomic Knowledge Scale(UNC-GKS)の翻訳し、エクソーム解析あるいは単一遺伝子検査を受けた患者を対象に質問紙調査を実施し、その妥当性・信頼性を検討することを目的とする。調査2において翻訳したUNC-GKSを用いて日本の一般成人のゲノム知識を測定することを目的とする。
3. 研究に用いる 試料・情報の種類	尺度の実施した回答
4. 外部への試料・情報の 提供	なし
5. 研究組織	大阪大学；

本研究に関する問い合わせ先

酒井規夫；norio@sahs.med.osaka-u.ac.jp